


退職者 NO.83

# こだま会報



響きあうみんなの力で  
ぬくもりのある社会へ



御坂峠からみた富士（雨宮和雄さんの作品）

目次

- 表紙写真・雨宮和雄さん  
／コラム「散歩道」鳥居  
伸太郎さん……………①
  - 「楽しい趣味の会」…②③  
生麦事件跡地見学とビール  
工場見学／歴史散策／  
手づくり文化祭／忘年囲  
碁大会／予告
  - 「会員紹介」計良竹次さん  
……………④
  - こだま俳壇／紅葉の相模  
湖町吟行／伊豆稲取温泉  
旅行……………⑤
  - 祝・こだま会結成25周年  
……………⑥⑦
- あの時・このとき・そし  
て未来へ／第4回輝け高  
齢期かながわの集い
- スナップ／編集委員から  
／コラム「地域のサーク  
ル活動」小川政則さん⑧

散歩道

30代のはじめにメタボ  
と四十肩に悩み、医者  
のすすめでラジオ体操から  
マラソンを日課にとり入  
れました。

しばらくすると、走らないでい  
るとムズムズする「ランニング・ホリッ  
ク（中毒）」になり、あげくの果てに  
トライアスロンを  
したくなりまし  
た。ちょうどそん  
な時、声をかけて  
くれたのがKCT  
C（県庁？サイク  
ル・ツーリスト倶  
楽部）のメンバ  
ーで、今日までお付  
き合いです。

自転車旅行の奨め

鳥居伸太郎

会は、毎年最低  
でも夏のRUN  
（2泊3日）と、  
暮れの望年RUN  
（1泊2日）の自転車旅行を、10人  
から少なくて6人ぐらいのチームで  
走っています。

若かった頃は砂利の林道を、それ  
も高低差のきつい峠越え「パスハン  
ター」を好んで挑戦していました。  
最近では平坦な下り勾配の多いコース  
を選ぶ傾向があります。

自転車旅行といっても、自転車を



琵琶湖一周RUN余呉付近(2005年夏)



佐渡島一周RUN(2004年夏)

袋に詰めて運び、出発駅で組み立て  
て目的地まで自転車でするので、全  
国どこにでも出かけることができる  
のがうれしいです。

07年も、米沢〜七ヶ宿街道〜白石  
まで走りました。おかげで体の調子  
はすこぶるGOODです。

地球に、お財布に、エコでやさし  
い自転車旅行、ぜひお仲間にも。

# 楽しい趣味の会

趣味の会は長生きの散歩道  
一緒に歩きましょう!!

跡見学園  
跡見キール工場  
生麦事件と探訪

## 楽しかったネ



秋、真つ只中の昨年10月10日、お天気は快晴で爽やかです。

退職して4年、こだま会総会には参加させていただいていますが、このような交流会は初めてです。

「生麦」駅は降りたことがないので、早めに行って駅の周辺を散策。

思ったことは、生麦(鶴見)は労働者の町だということ。赤提灯や立ち

飲み、食堂等が多いなと思いつつ、昼食を食べ、駅前まで待っていると、沢山の人がビール工場見学のため集まっていました。この集団かなと尋ねたら、外人さんもいて、「私達はチエコスロバキア友好の者です」と言われ、ビール工場見学にこんな沢山の人が行くのだなと思いつつながら会員の皆さんを待ちました。

総勢21人が一路、生方講師を先頭に生麦事件があった場所(道路)へ行き、講師の説明を聞き、みんな神妙な顔で、このような場所で惨事が起きたのかと聞き入りました。

食事がまだの人は、心の中(腹の中)はビール工場へ向いているのかなと思いつつ、事件のあった道を『生麦村英人遭難略図』を見ながら見学し、ビール工場に到着しました。工場はきれいに整理整頓されてい

## 生麦事件とは

時代は1862年8月21日(新暦9月14日)、午後2時頃、薩摩藩主・島津忠義の父、島津久光(昨年NHKで放映された大河ドラマ『篤姫』の主人公・天璋院「篤姫」の従兄)の一行約400人が西上の途次、生麦村で馬に乗った英国人4人(内1人は女性)と遭遇。馬が行列を乱したため、警護の武士が騎乗者に斬りつけ、1人を斬殺、他の3人に傷を負わせた事件。イギリスは事件の内容から幕府に10万ポンド、薩摩藩に2万5千ポンド(現在値約38億円)の賠償金を要求。藩には金がなく、幕府から借りて支払い、事件は解決した。「攘夷論」(外国を排撃し鎖国を主張する議論)の無謀が明らかになった事件。

## 歴史散策 倭建命東夷征伐の 説話一歩水海へ



走水神社にて

11月10日、「京浜急行馬堀海岸駅」に10時集合。

て、案内の女性の方が施設のことを説明してくれました。ロビーでいただいたビール試飲券を持って試飲場所に着く。早速カウンターに出してビールとおつまみをいただき席に戻ると、生麦事件のことを聞いている時の真剣で、思いに耽っている顔とは違い、みんなニコニコしてビールがない国から来たように「美味しい味だね」と飲んでいた顔がすばらしかった。工場内の敷地で自己紹介をし、楽しく有意義な時間を過ごせま

した。 帰りに『生麦事件参考館』に寄り、館長の浅海武夫さんから事件の起こった日から賠償金の支払い、そして両者和解までの話とビデオを観させていただき、生麦事件の総まとめを聞き、良かったと思えました。 次回もこのような企画があればぜひ参加したいと思えます。参加者一同で、「また参加したい」と誓いあった1日でした。楽しかったね。(新倉仙太郎)

まずバスで走水へ。「水源前」で降りる。天保14年に川越藩により今のポンプ所の湧水を利用した水車小屋が置かれ、江戸時代に走水番所として利用されたのが、明治28年の日清戦争で海軍用水が増えたので、水源を覚榮寺裏山に求めた。

次に走水小学校で、この辺の古い話を聞いた後、すぐ近くの御所が崎(旗山崎)に行き、弟橘姫が入水した走水へ。弟橘姫が入水して7日経って姫の御櫛が浜に漂着し、それを納めて御陵としたのが岩窟にあった橘神社とのことだが、この神社は明治18年に取り壊され、同42年に走水神社に合祀された。

続いて倭建命の寵臣で疫病死した者を弔った覚榮寺、及び源頼朝が自筆の円覚経を三浦の海に沈めたとい



予告!! 予告!! 予告!!

- 歴史教室 (講義)
  - テーマ 頼朝暗殺未遂「曾我兄弟事件のなぞ」
  - とき 3月9日(月) 13時30分～15時30分
  - ところ こだま会事務所がある横浜合庁5階会議室
  - 講師 中村猪一郎会員
  - 参加費 無料
  - 申込先 電話・Fax 045 (361) 0112 (佐藤喜治)
- 歴史教室 (散策)
  - とき 6月8日(月)
  - ところ 三浦三崎に頼朝ゆかりの寺社を探訪
- 囲碁同好会
  - 月例会 毎月第1日曜日・10時～2月1日・3月1日
  - ところ 囲碁サロン「有心」(うしん) 横浜駅西口大洋ビル6階
  - 会費 700円
  - 申込先 登 豊吉045 (824) 7155 青沼慶祐045 (782) 7665
- 楽しい俳句教室
  - 月例句会 毎月第3木曜日午後1時～。旅先での吟行も。初心者歓迎。楽しい句会です。
  - 2月19日/3月19日
  - ところ こだま会事務所
  - 指導 山本つぼみ先生(阿夫利嶺主宰)
  - 会費 500円
  - 申込先 こだま会事務局 045 (212) 3179 又は小川政則042 (742) 2253

☆他に、「北海道スキー」(1月末)や「食文化を楽しむ会」などもあります。こだま会結成25周年記念の「健康講座」や「花見会」「みかん狩り」なども予定。乞うご期待。

われている円照寺を見学して、今回のメインである走水神社へと向かった。走水神社のなかには弟橘姫の歌碑がある。明治の元勲・東郷平八郎、乃木希典が発起人となり建てられた歌碑には、「さねさしがむのをぬにもゆるひのほなかにたちて とひしきみはも」とある。

他に船舶の安全を願って建てられた「船かじの碑」もある。

庖丁塚を見学した後、観音崎灯台へ。この灯台はレンズがフランス製で、我が国初の洋式灯台である。

以上が今回の歴史散歩の概略であるが、明治から大正、昭和にかけて、日本の国が歩んだ富国強兵時代のなごりが感じられた。

なお、最後にこの歴史散歩に昔の友人が新しく参加し、将来が楽しくなった。

(村木美喜雄)



今年も、演芸や作品展示など、みんなで盛り上げていきましょう。

(青沼慶祐)

神奈川自治労連退職者会

ふれあい手づくり文化祭で交流

神奈川自治労連退職者会は昨年の10月26日(日)、「第14回ふれあい手づくり文化祭」を横浜市従会館で開きました。

会場には、演芸部門と作品展示の2つのコーナーがあります。

演芸は市退職者の

方々の独壇場で、三味線と尺八の合奏や日本舞踊、民謡など、どれも素人水準を越えていて、感心するばかりです。

こだま会からの出演は1、2人程度で少し淋しい状況でした。こだま会会員のなかにもプロなみの芸を持った方がいるとも聞いています。

今年の文化祭ではぜひご披露を。

一方、作品展示部門では、こだま会から油絵や絵手紙、手芸品、写真など多くの方が出展し、作品が会場の半分ほどを占め、市退職者の作品を上回るほどの数が出品されました。今年も、演芸や作品展示など、みんなで盛り上げていきましょう。

囲碁同好会 忘年囲碁大会 オープン戦で熱戦



囲碁同好会の例会は横浜西口「有心」で第一日曜日と決まっています

が、昨年12月7日、こだま会「忘年囲碁大会」と銘打って、かながわ労働プラザで開催。こだま会会員以外にも参加を呼びかけるオープン戦で、10時開始時には女性棋士9人を合わせて69人がそろいました。

青沼慶祐こだま会副代表幹事が、「忘年囲碁大会」への参加のお礼のべ、登豊吉囲碁同好会幹事が対局規定を説明し、表彰と賞品を紹介して、「今日は1日、囲碁を楽しんで下さい」と挨拶。4時半まで4回戦の熱戦が続きました。

結果は次のとおりです。名人戦は昨年に引き中川徹氏が優勝(4勝0敗)。段級戦A組優勝は安西道義3段(4勝0敗)。段級戦B組優勝は来栖康夫初段(4勝0敗)。段級戦C組優勝は大石雅子3級(4勝0敗)。段級戦D組優勝は岩瀬良雄6級(3勝0敗)。対局風景のスナップはホームページをご覧ください。(米山東伊)



還暦を迎えたのを機に、中学校の同級会が故郷の佐渡で開かれた。卒業してから45年がすぎた。

新潟港からフェリーで2時間余、島の表玄関「両津」に着く。そこから海岸線に沿って南西に延びる県道を車で1時間ほど走ると「松ヶ崎」。卒業当時は1500人ほどの人口も現在は600人ばかりが6つの集落に暮らし、高齢化・過疎化の進む小さな港町だ。正面には日本海が渺茫と広がり、岬に囲まれた静かな入り江に面し、海に向こうには「荒海や佐渡に横たふ天の川」と芭蕉が詠んだ出雲崎の町、弥彦山など越後の山々や遠く北アルプスなどを望むことができる。

ここは、江戸時代に京、大坂と北海道を結ぶ、「北前船」の風待ち港として賑わった所。鎌倉、室町期には「日蓮」や「世阿弥」などが、時の為政者によって流罪となり着岸した地として知られている。

◇ ◆ ◇

# か・き・く・け・この暮らし

計良 竹次さん (秦野市在住)



海を見下ろす丘の宿に、首都圏や関東、東北など各地から、27人の仲間が当時の面影を連れてやってきた。職業もさまざま、白髪、薄髪、肥満組など体型も豊か。今日まで生きてきた証を顔に刻み込んでいる。

久しぶりに会

しの再会は、忘れていた昔の自分にも出会えたようで嬉しい。そして目頭を押さえる者もいる。

「みんなに呼びかけて同級会をやるよ！」という話は、20年ほど前から毎年のように出ていたが、今日まで実現できずにいた。

島では、都会に出て働くことを「旅に出る」という。高度成長期にさしかかるところ

の暮らしが忙しく過ぎ、「みんなどうしているだろう」と思い出すこともあったが、ごく親しい者を除けば知る人は少ない。

う緊張感からか、はじめのうち硬かった表情も、「マメだかエー」「マメだつちやー」(元気だったかい。元気だったよ)のことばを交わすうち、いつのまにか中学時代にタイムスリップしている。生まれた土地で一緒に過ごした者どう

そんな旅人たちに大勢参加してもらおうと新聞を出すことを思い立ち、開催の案内と一緒に思い出ばなしや近況などを募ったところ、人生の節目ということもあって、たくさんの方が寄せられた。それをもとに、住所探しのエピソードなどをまとめ、『同級会ニュース』(還暦特集号)として手書き新聞で発行した。

「忘れていたふるさとや懐かしい友の顔が浮かび、あのころに帰ったようだ」新聞を読んだ。涙がでるほど嬉しかった「手書きのぬくもりを味わいながら何度も読み返している」「みんなに会える日がいまから待ち遠しい」などの声が届いた。

手書きニュースは、故郷を離れて長い旅暮らしをしてきた仲間たちの空白を埋め、心をつなぐきっかけを作ってくれたようだ。

その後も交流の場として年1回のゆったりペースで発行が続いており、3号を数えている。

卒業当時には120人余いた母校の生徒も、今はわずかに15人。廃校の危機にあるという。過疎地の宿命とはいえ、抛り所をなくしてしまおうようで淋しい。

「還暦同級会」から2年が過ぎた。その時に友が語ってくれた「感動・興味・工夫・健康・恋する心」を忘れずに暮らす「か・き・く・け・この人生」を胸に刻んで、この先も元気に交流が続くことを願っている。(けら たけじ)



こだま俳壇 12月

散紅葉轍の跡の水溜り

井村 友彦

派遣切りひっそりかんと寮霜夜

小川 水草

老女二人昭和でしょ大正でしょ菊薫る

木村 武子

柿すだれ父の古里みえてくる

島田多嘉子

初日の出孫の誕生寿ぬ

白井保次郎

枯枝に枝と化したる枯蟻螂

白石 為康

新しきカレンダー掛け新春を待つ

鈴木志げ子

不摂生すると言はれ野菜鍋

高橋 和江

派遣切り許さずと立つ冬の朝

鳥海 敏雄

豊作のみかん獲り終え星一つ

中村 桂子

柚子浮かべしばし忘れる派遣切り

松尾佐知子

思い切り髪型変えて冬うらら

三井 光子

病床に句友の便り冬ぬくし

横川美代子

ながらへて主婦半世紀の炊初

山本つばみ

元気をもらった伊豆稲取温泉旅行

11月19日・20日の伊豆稲取旅行は素晴らしいものだった。総勢21人、楽しく思い出をつくることのできた。まず晴天だったこと。料金が安いこと。それにもましてOBたちの元気なこと。私自身が「元気をもらった」のだった。



本厚木駅南口10時出発。最初は、御殿場にある秩父宮記念公園で昭和天皇の弟が住んでいた所。「モミジバフウ」の紅葉は秋を感じさせた。次は、757年に万巻(まんがん)に万巻(まんがん)上人の創建と伝えられる箱根神社。この2ヶ所とも私自身何度もドライブで前を通っていた所で、この企画がなかったら見る機会もなかったのではないかと思った。

続いて一路、伊豆稲取温泉に向かう。大室山の桜公園に寄り「冬桜」を見学。可愛い小さい花を見て暖かい気持ちになった。ホテルには17時過ぎに到着。夕食までの間、それぞれに温泉を楽しんだ。夕食は、稲取名物の大きなキンメダイの姿煮三皿な

ど、料理も豪華で大満足。また、歌の好きな役者揃いの先輩のカラオケも素晴らしかった。食事のお開き後の幹事の部屋での交流会も楽しかった。朝は6時過ぎに風呂に入り、海の水平線からの日の出は素晴らしいものだった。2日目は、河津七滝(かわづななだる)の見学から始まる。全部見るには30分間では時間が足りず、「初景滝」まで行つて戻る。次は、「浄蓮の滝」。滝と紅葉と原生林の静寂の雰囲気要素適であった。最後の修善寺

紅葉の相模湖町吟行

合同句会

11月26日、県北の紅葉を訪ねる合同句会に参加した。

幸い小春日和の好天で、山里は冬紅葉の盛りだった。マイクロボス満席の21人、こだま会からは4人の参加だった。

相模川上流の桂橋で溪流の紅葉を見て、甲州街道の小原宿本陣を訪れる。よく整備され、民具の展示などもあり、当時を偲ぶことができた。



みことな紅葉と富士と

もみじ林の前に、運転手の特別サービスで旭滝に寄った。尺八をやる人なら誰でもが知っている「滝落ちの曲」はここがモデルになったという。もみじ林は、紅葉と富士山の眺めがよかった。皆さん、次回はぜひ参加してみませんか。(松本正治)



次いで藤野町の石井住宅を経て相模湖で昼食。午後から内郷の正覚寺で句会を行った。この寺は柳田国男さんの民族調査や俳句寺としても知られている。島田たか子さんが、次の句をつくり高ポイント。

子原宿火鉢にさせる火ばしかな

紅葉の美しさを堪能した1日だった。(小川水草)

# あのとき・このとき・そして未来へ

退職者こだま会は今年、25周年を迎えます。「響きあうみんなの力」を合言葉に、23人の小さな組織から、1330人へと飛躍しました。この間、『10周年の歩み』『結成20周年記念誌』を発行。今号は、この5年間をメインに振り返ってみました。

2005年  
～  
2009年

## 成長したこの5年

◆会員は1330人に

結成時の会員は21人。2000年には1000人を突破し、現在1330人(終身会員1230人・年会員100人)に。年会費の納入も90%を超える高率です。事務局体制もパソコン導入をするなどして強化されました。

◆ホームページで情報発信

年4回の会報では盛りきれない情報を、早く、より豊かに提供するため、ホームページを起ち上げました。会報も創刊号から閲覧できます。楽しい行事の写真や資料が満載で、「日本国憲法成立史」「退職者のための手続き」なども好評です。

◆みんなの顔のみえる「会報」めざして

会報の発信はこだまとなり、みんなを結び紡ぎあっています。憲法・年金・医療・趣味の会など情報満載。総会

◆特集号に載る「せいかつ短信」

(49号から)は好評です。08年からA4版と大きくなり、読みやすくなりました。

◆ネットワークを広げる手づくり「文化祭」

横浜市や鎌倉市などの退職者会と共同して毎年1回、歌・踊り・絵や書、手芸、俳句など持ち寄って楽しく交流しています。また、県内にとどまらず全国自治体退職者連絡会にも参加するなどネットワークは全国的です。

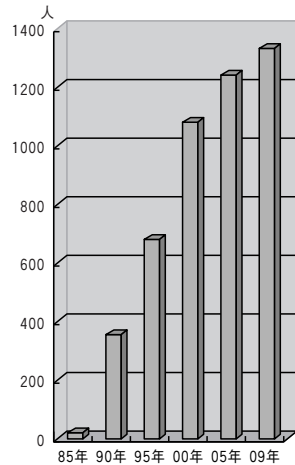
◆「趣味の会」は長生きの散歩道

会員の得手を生かしたさま



総会では毎年開かれ、交流を深めます

会員数の変化



さまざまな趣味の会で、楽しく学びあっています。古くからは歴史教室、料理教室、ここ数年では俳句教室、囲碁同好会、援農の会など。顔を合わせて喋ったり作ったり書いたりして、元気を貰います。

◆楽しいバス旅行・スキー旅行  
ビール工場も見学

20周年には、西伊豆バス旅行や足柄のアサヒビール工場見学などを行い、とても好評でした。08年は生麦事件の歴史を訪ねつつキリンビール工場を見学・試飲。また伊豆稲取の紅葉秋を訪ねるバス旅行。スキーは北海道富良野で毎年元氣よく滑っています。いずれも「笑顔でまた会いましょう」という声がいっぱいです。

◆九条の会——平和・民主・人権

04年、加藤周一さん、大江健三郎さんなどが、改憲・参戦の動きに対し、日本国憲法9条を守ろうと「九

条の会」を設立。こだま会も呼応して05年、県職労連とともに「神奈川県職員九条の会」を発足させ、「平和の集い」や学習会、諸行事などで輪を広げています。県内でも各地で会員が「九条の会」に参加しています。全国の各地、各職場、各専門分野でこの会は8千に迫る勢いです。自衛隊内で、歴史に逆行する日本歴史観が教育されているとか。「九条の会」の任務も重くなっています。

◆力を合わせて署名活動

医療・福祉など制度改悪のなか、「後期高齢者医療制度」では、中止・撤回を求める署名を行いました。会員の50%を超える659筆をいただき、県職労連とともに国会に提出しました。08年には「地域医療の充実と県立病院の直営を求める会」に参加し、医療・福祉の向上を願って力を合わせています。また06年以来、横須賀原子力空母再配備の可否を問う住民投票条例制定を求める直接請求署名にも地元会員を中心に頑張ってきました。

◆県職労連の応援団として

05年、県職労は県病院労組・県公務一般労組・県職労と改編し、3単組で神奈川県職労連を結成。こだま会も「県職労連退職者こだま会」と改称し、「九条の会」や署名活動、行事の共催などに協力しています。



# こだま会結成25周年

1985  
〜  
2004

## 響きあうみんなの力

県職員の定年制実施を前にした1985年3月15日、現役を含め69人が県庁新庁舎12階の小食堂に集合。こだま会の前身「退職者厚生会」として出発しま

した。会員は21人。以後、「退職後も安心できる生活を」「響きあうみんなの力を」と一歩一歩、運動を積み重ねてきました。

〈主な活動〉

- 1988年(会員230人) 名称を「退職者こだま会」に
- 1990年(会員356人) 事務所開設(県労連事務所内)。「歴史散歩の会」など
- 1991年(会員430人) 第1回「シルバー料理教室」
- 1992年(会員504人) 第1回「健康ウォークの会」
- 1994年(会員635人) 10周年記念誌「10年のあゆみ」刊
- 1995年(会員744人) 第1回「手づくり文化祭」
- 1997年(会員779人) 「薬膳料理の会」↓「食文化を楽しむ会」
- 2000年(会員1018人) 「地域懇話会」
- 2001年(会員1058人) 第1回「俳句教室」「草木染め1日教室」
- 2003年(会員1167人) 第1回「囲碁同好会」
- 2004年(会員1195人) 20周年記念誌「こだま」刊
- 2009年(会員1330人) 結成25周年



料理教室にて

### 歴代の代表幹事と事務局長(敬称略)

|      |               |                |                |                |
|------|---------------|----------------|----------------|----------------|
| 代表幹事 | 秦謙次郎(1985~88) | 児玉欣一郎(1989~94) | 鈴木志げ子(1995~02) | 生方武羅夫(2003~現在) |
| 事務局長 | 岡本一二(1988新設)  | 青木 武(1989~98)  | 加藤利秋(1999~現在)  |                |

今後に望むこと

◎運動

何より平和と生活を大切に

◎「会報」の充実

会員の顔が見える会報

◎催し

楽しい旅行や行事の企画を推進

◎世話人

催しなどの世話人大募集

◎健康

健康が一番。健康講座など

◎応援団

県職労連の応援団として奮闘

⑥国保をめぐる実態と運動、⑦基地・平和のたたかい、など7つの活動報告がありました。

第3部の文化活動の交流では、各組織の趣味サークルの演技が披露され、午後3時40分、参加者合唱のなかで集いは終了しました。こだま会からは幹事7人が参加しました。

(加藤利秋)

昨年の11月12日、午前10時30分から相模原市南市民ホールで「第4回輝け高齢期かながわのつどい」が44団体230人の参加で開かれました。中里龍夫実行委員会代表の開会あいさつ、新倉事務局長の基調報告に続いて、全国老人福祉問題研究会副理事長の矢部広明氏が『どうなる老後の介護問題』と題して1時間、現在のわが国の高齢者の実情と国の介

## 第4回 輝け高齢期

## かながわのつどい

### 44団体 230人が交流



護制度の現状、また介護・医療面での高齢者切り捨てに対する全国に広がる怒りと運動について、わかりやすい講演がありました。午後の第2部では、各地域・組織を代表して、①介護保険の現状から、②出産・育児の問題、③日本の食糧事情と自給率引き上げのとりくみ、④年金者組合の最近のとりくみ、⑤後期高齢者医療制度のたたかい、

### ごあんない

★結成25周年記念として「健康講座」「花見会」「みかん狩り」などを計画しています。こだま会の運営を支えるサポーターも募集中です。

# スナッブ

## 檜の木に積もる雪

手子神社(金沢区小泉)の境内にある檜の木に雪の積もるところを撮りました。気に入っている一枚です。(写真:青沼慶祐)



### 編集委員から

◆お知恵拝借 手と頭の回転が遅くなり書類整理等が進まず困っています。皆様、お知恵を借して下さい。  
(虻川弘子)

◆よりよい「会報」創りに 昨年は体調をくずしましたが、今年には頑張り、よりよい「会報」創りに努めたい。  
(雨宮和雄)

◆身辺整理から 今年の後期高齢者。人生の最終期を如何に過ごすか。まず身辺整理からと思いつつ、目先

の日程に追われています。

◆健康第一 何事も「健康第一」で頑張ります。  
(飯塚武弘)

◆楽しい年に 今年はこのまま会結成25周年。楽しく元氣の出るような催しや「健康講座」など開催できればと思います。  
(加藤利秋)

◆健康に過ごしたい 閑と晴れた朝、マンションの屋上で見る朝日は富士山を望み美しい。80代に突入。健康に過ごしたい。  
(木村武子)

◆釣り・畑・仕事 昨年は約4キロのスズキをゲット。畑で戯れ、仕事はほとんどにして頑張ります。

(新井通子)

◆のんびりゆっくり 高齢者の仲間になって1年が加速度的に速くなったことを実感。何事ものんびり、ゆっくりを心がけようと思っています。  
(吉澤靖夫)

◆初の黒人大統領 ガソリンの高騰に苦しみ、100年に一度の暴落した安い株式を買い金もなく、アメリカ初の黒人大統領オバマ氏誕生に驚いた昨年でした。  
(米山東伊)

## 地域のサークル活動

小川 政則

どこもサークル活動が活発である。私の地域公民館でも学習・芸能・体育・趣味・子育てなど149のサークルと27の団体がある。これでは会場取りや個人の日程調整が大変なはずである。数えらると私も恥ずかしいくらいサークルや団体に入っている。住居に寝に帰るだけだったので、定年後は地域の人と接しようと考えていた。退職後始めた俳句は「座の文芸」で、孤独より集団の研鑽を大切にしてい

る。仲間と公民館・年金者組合・職場OB会など俳句サークルを立ち上げてきた。峯陽さんという人は文化サークルの運営について、「参加者が主役」「自分たちらしい運動の創

造」を提言されている。これは自主的な活動の組織ならどこでも同じである。発足したばかりの組織は世話役の負担が多いが、仲間が増え継続すると自ずと役割分担が出来て、個人では

出来ないことが可能になる。俳句サークルでは連合して、これまで15回もの県内外のバス吟行を行ってきた。足の弱い老人から「息子にも出来ないことをやってみてもらっている」と喜ば